

「長沼高ねぶた」完成

2022年度統合で最後の作品

二〇二二（令和四）年度に統合が予定されている長沼高の生徒が作る最後の「長沼高ねぶた」が完成した。生徒は三十年の伝統を締

めくくる作品に、統合後の希望を託した。同校の実行委員会と美術部を中心に、全校生徒七十二人が約二ヵ月半かけて制作した。



ねぶたの完成を喜ぶ長沼高の生徒ら

前面に「不動明王」、後面に「弁財天」が座している。「雲外蒼天」「進み出せ、未来の道へ」をテーマに、統合という大きな出来事の先に待つ希望を込めた。見た人の記憶に残るよう、例年になく二体を作った。

同校では、一九九一（平成三）年度からねぶた作りを始め、地域の長沼まつりで運りしてきた。長沼まつりは二年連続の中止が決まったが、ねぶたの展示は行われる予定。

実行委員長五十嵐夏菜さん（三年）は「二〇二二は「長沼高」として最

後のねぶた。さまざま域の力を借りて続けてな人に見てほしい」ときた。形を変えても伝願った。担当教員の和統を残す方法を模索し田知典さん（四）は「地たい」と話した。